

放射能汚染対策、市が測定を

質問

3月に起きた東日本大震災で、東京電力の福島第一原子力発電所の事故により、放出された放射性物質は、広島型原発で20個分という見解が出ている。

この地域でも、汚染された稲わらを食べた牛の肉が、地元のスーパーで売られた。住民の不安は消えない。

放射能汚染対策について、観測体制、子どもや消費者、生産者の立場での対策はどのようになっているか。

放射能汚染について、愛西市として測定できる体制を

もってほしい。市民の不安に對して、測定器を貸し出しできるようにしてはどうか。

経済建設部長

稲わらの汚染問題について、愛知県内の畜産農家に供給した事実はないとの報告を受けている。

市民生活部長

放射能汚染された稲わらを給餌されていた可能性がある牛肉が愛西市でも販売されていたと、7月18日に県から連絡が入った。在庫があった場合は、県の衛生研究所で検査

する。

大気の関係は、測定が県内12市町で行われた。福島原発からの放射線の影響は、特に

見受けられなかった。測定器まで購入するという考えは、今のところ持っていない。

汚染がれきの関係は、震災ごみを愛知県内で受け入れた自治体はどこにもない。

教育部長

学校給食の食材について、検査を受けてあるという前提の考えなので、測定する考えはない。

巡回バス、佐屋コース21%利用減

質問

愛西市の巡回バスは、運行の見直しが行われ2年が経つ。平成20年度と22年度を比較すると、全体の利用者数は、

9千721人の減少(76%減)し特に佐屋ルートが2万3千333人の減少(21.4%減)となっている。佐屋や佐織の福祉センター利用者からは「時刻表を元に戻してほしい」「いく

ら言っても改善してもらえない」とあきらめの声も聞かれる。運行の見直しは、いつまでに行うのか。

津島市は、乗り入れに問題はないと言っているが、愛西市の考えは。

総務部長

地域公共交通会議を近々には立ち上げて、議論してもらう形で進めている。

現時点では、利用状況を詳細に検証するため、停留所別、時刻別の集計を進めている。

10月中旬には、運行検討委員会を開催して方向性を示していく。巡回バスの問題については、そう長くこの状態を続けるべきではない。

津島への乗り入れについては、今協議をすすめている。



加藤敏彦 議員

